

事務事業名	7069 高齢者敬老事業													
担当組織	健康福祉部					健康長寿課					担当	高齢者支援担当		
組織コード	R3	17	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R3	01	03	01	04	03	01	記入日	令和 3年 6月17日
	R2	17	10	00		R2	01	03	01	04	03	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ		実施計画候補
基本目標	02 誰もが健康でいきいきと生活できるまち	○ 対象 ● 対象外
分野	04 高齢者福祉	
施策	21 高齢者の社会参加の促進	
事業期間	平成17年度～令和2年度	
根拠法令 通達等	関連計画 施政方針	戸田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの	
対象	記念品の贈呈者：70歳以上の市民 敬老祝金の贈呈者：77歳、88歳、99歳、100歳の市民 敬老のつどいの対象者：70歳以上の市民	
事業目的	高齢者の長寿を祝い、併せて敬老の意を表するとともに、明日への活力としていただく。	
事業内容	70歳以上の方に記念品を贈呈し、対象年齢の方に祝金を贈呈する。また、70歳以上の方を対象に文化会館にて「敬老のつどい」を開催し、演芸やアトラクションを催す。	
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input checked="" type="checkbox"/> 協働・協力 (ボランティア)	

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和2年度 執行額(千円)	令和3年度 予算額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	令和6年度 計画額(千円)
	事業費		60,114	72,030	70,273	72,030	72,030
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	60,114	72,030	70,273	72,030	72,030
	人件費		1,661.76	2,769.6	2,769.6	2,769.6	2,769.6
	投入 人員	常勤職員	0.24人	0.4人	0.4人	0.4人	0.4人
		非常勤職員	0.25人	0.25人	0.25人	0.25人	0.25人
事業費+人件費		61,776	74,800	73,043	74,800	74,800	
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式	R1目標 R1実績	R2目標 R2実績	R3目標 R3実績
	活動 ①	入場券配布件数	人	70歳以上の入場券配布件数	700	0	0
					737	0	-
	活動 ②						
	成果 ①	参加者数	人	70歳以上の参加者数	600	0	0
					669	0	-
成果 ②							
目標達成 状況 の分析		A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 「敬老のつどい」について、令和2年度は会場の施設修繕によって中止となり、目標値どおりの結果となった。 なお、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となる見込みである。					

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	30年度	1年度	2年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	＜判断理由＞ 高齢者の長寿をお祝いし、敬意を表することは、住み続けたいと思うまちづくりを進めるうえで大切なことであり、また、イベント参加や祝金等の贈呈を楽しみにしている高齢者の生きがいとして目標達成に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	30年度	1年度	2年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	＜判断理由＞ 送迎バスや招待状を廃止し、経費削減を図った。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	30年度	1年度	2年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	＜判断理由＞ 敬老のつどいの開催に当たっては、市職員、協力団体等の協力により円滑に行われている（令和2年度は中止）。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	30年度	1年度	2年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	＜判断理由＞ 敬老のお祝いという事業の性質上、受益の適正化という判断は難しいが、概ね適正な範囲であると言える。

4. 令和2年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特になし
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和4年度で終了 <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了
	＜判断理由＞ これまで、敬老祝金の段階見直しや敬老のつどいにおける送迎バスの廃止など、定期的に見直しを行ってきた。今後も随時必要な見直しを行いながら事業を継続していく。
今後の取組方針	「敬老のつどい」の実施手法及び実施判断については、新型コロナウイルス感染症等の影響も踏まえながら検討を行う。敬老祝金及び敬老祝品については、引き続き同内容で実施する予定だが、高齢化の進展や財源を注視して事業内容の見直しを検討する。

事務事業名	7074 シルバー人材センター支援事業													
担当組織	健康福祉部				健康長寿課				担当	高齢者支援担当				
組織コード	R3	17	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R3	01	03	01	04	04	01	記入日	令和 3年 6月17日
	R2	17	10	00		R2	01	03	01	04	04	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ		実施計画候補
基本目標	02 誰もが健康でいきいきと生活できるまち	● 対象 ○ 対象外
分野	04 高齢者福祉	
施策	21 高齢者の社会参加の促進	
事業期間	平成10年度～令和2年度	
根拠法令 通達等	戸田市シルバー人材センター補助金交付要綱	戸田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの	
対象	概ね60歳以上で、自分の持てる技術等を地域社会に役立てようとしている市民	
事業目的	高齢者が働くことを通じて健康維持や社会参加による生きがいづくりを進めることによって、高齢化社会に活力を生み出す。	
事業内容	シルバー人材センター運営資金の助成等	
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()	

2. 実施結果

事業の 予算・ 実績	事業内容		令和2年度 執行額(千円)	令和3年度 予算額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	令和6年度 計画額(千円)	
	事業費		22,711	23,255	23,253	23,255	23,255	
	財源 内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	22,711	23,255	23,253	23,255	23,255	
	人件費		692.4	1,038.6	1,038.6	1,038.6	1,038.6	
	投入 人員	常勤職員	0.1人	0.15人	0.15人	0.15人	0.15人	
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人	
事業費+人件費		23,403	24,294	24,292	24,294	24,294		
目標 達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		R1目標 R1実績	R2目標 R2実績	R3目標 R3実績
	活動 ①	会員数	人	会員数	650	700	750	
					754	826	—	
	成果 ①	作業受託件数	件	作業受託件数	1,800	1,820	1,700	
					1,909	1,753	—	
	成果 ②							—
						—		
目標達成 状況 の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 会員数については、積極的な広報活動の結果、約10%増加した。コロナ禍の影響によって受託件数は目標に届かなかったが、営業努力により一定件数を確保することができた。							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	30年度	1年度	2年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 働くことを通して、健康維持や社会参加による生きがいを求める高齢者も多く、こうした高齢者のニーズに応じることができる事業であり、目標達成に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	30年度	1年度	2年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 高齢者の生きがいとしての就労創出事業であり、施策の目的に合致していることから、シルバー人材センター運営補助として、人件費及び事務管理費等を支援することについては適正である。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	30年度	1年度	2年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<判断理由> 高齢者の生きがいとしての就労創出事業の運営に対して、運営費補助による支援方法は効率的である。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	30年度	1年度	2年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 法人の事業展開に応じた見直しが必要だが、現時点では適正である。

4. 令和2年度中に実施した見直し内容

見直し内容	特になし。
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1現状で継続 <input type="radio"/> 2拡大して継続 <input type="radio"/> 3縮小して継続 <input type="radio"/> 4他事業と統合 <input type="radio"/> 5休止 <input type="radio"/> 6その他見直し <input type="radio"/> 令和4年度で終了 <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了
	<判断理由> 元気な高齢者の生きがいづくりに加え、高齢者の収入増加も期待される事業であるため、会員数の増加と作業受託件数の増加を続けられるよう、今後も支援していく。
今後の取組方針	高齢者が働くことを通じて健康維持や社会参加による生きがいづくりができる事業である。今後においては、団塊の世代が高齢期を迎えることや、女性会員による家事仕事へのニーズが高まっていることを踏まえ、会員数や作業受託件数の増加を目指し、市としては広報紙や窓口における啓発等の周知活動をさらに推進していく。

事務事業名	7076 老人クラブ活動事業													
担当組織	健康福祉部					健康長寿課					担当	高齢者支援担当		
組織コード	R3	17	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	R3	01	03	01	04	05	01	記入日	令和 3年 6月17日
	R2	17	10	00		R2	01	03	01	04	05	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補		
基本目標	02	誰もが健康でいきいきと生活できるまち									○ 対象		
分野	04	高齢者福祉									● 対象外		
施策	21	高齢者の社会参加の促進											
事業期間	昭和40年度～令和2年度												
根拠法令 通達等	老人福祉法 戸田市老人クラブ補助金交付要綱					関連計画 施政方針		戸田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画					
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	戸田市老人クラブ連合会												
事業目的	戸田市老人クラブ連合会及び同連合会を構成する単位老人クラブへの支援を通じて、高齢者の主体的活動及び社会参加の促進を図る。												
事業内容	戸田市老人クラブ連合会の活動や資金を援助する。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		令和2年度 執行額(千円)	令和3年度 予算額(千円)	令和4年度 計画額(千円)	令和5年度 計画額(千円)	令和6年度 計画額(千円)	
	老人クラブ活動資金の補助							
	事業費		3,764	6,849	7,093	6,849	6,849	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	502	502	502	502	502	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
		一般財源	3,262	6,347	6,591	6,347	6,347	
	人件費		3,115.8	2,492.64	2,492.64	2,492.64	2,492.64	
	投入 人員	常勤職員	0.45人	0.36人	0.36人	0.36人	0.36人	
非常勤職員		0.2人	0.2人	0.2人	0.2人	0.2人		
事業費+人件費		6,880	9,342	9,586	9,342	9,342		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		R1目標 R1実績	R2目標 R2実績	R3目標 R3実績
	活動①	補助対象クラブ数	クラブ	補助金の交付対象クラブ数		35	36	36
						36	36	-
	活動②							
	成果①	TODA元気体操の開催教室数	箇所	TODA元気体操の教室数		6	7	3
					6	1	-	
成果②								
目標達成 状況 の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 連合会を構成する単位老人クラブの数は維持され、高齢者の社会参加の促進が図られた。 老人クラブが主体となったTODA元気体操の教室については、コロナ禍により開催回数が限定された。							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	30年度	1年度	2年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 住み続けたいまちを推進するためには、高齢者の生きがいづくり、社会参加の促進が必要である。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	30年度	1年度	2年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 補助金については、要綱により対象及び基準を明確にしている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	30年度	1年度	2年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 単位老人クラブ及び老人クラブ連合会の運営は、各クラブの自主・自立を基本に運営・支援をしている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	30年度	1年度	2年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 各老人クラブの活動費は、市、社会福祉協議会からの補助金と当該クラブの会費で賄われている。

4. 令和2年度中に実施した見直し内容

見直し内容	
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 令和4年度で終了 <input type="radio"/> 令和3年度で終了 <input type="radio"/> 令和2年度で終了
	<判断理由> 高齢者が元気でいきいきと生活し、地域活動を積極的に展開するために継続する必要がある。
今後の取組方針	自主・自立の運営を基本に、適切な支援を行っていく。各クラブの活動については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に留意しながら取り組む。